

2017年第11回 OPI 国際シンポジウム(台湾大会)議程

主題 双方向教育における教師と学生のあり方

(雙向互動教学中教師與學生所扮演的角色)

主催者:淡江大学日本語文学科

場所:淡江大学淡水校園驚聲國際會議廳(新北市淡水區英專路 151 号)

時間:2017年8月4日・5日(金 土曜日)

20170724 版

一日目 2017年8月4日(金曜日)	
08:20-	開場 受付
08:50-09:10	驚声国際会議場(驚声ビル3階)
	開幕式 開会の辞 司会者 王 天保(淡江大学助理教授) 張 家宜(淡江大学学長) 嶋田 和子(2017年第11次 OPI 国際シンポジウム台湾大会顧問) 塩沢 雅代(日本台湾交流協会文化室主任)
09:10-10:10	驚声国際会議場(驚声ビル3階)
	基調講演 1 司会者 曾 秋桂(淡江大学教授兼学科主任 村上春樹研究センター長) 2017年第11次 OPI 国際シンポジウム台湾大会実行委員長) 講演者:佐藤 学(学習院大学教授) テーマ 学びの共同体における学びの再定義と日本語教育
10:10-10:30	ティータイム
10:30-11:30	驚声国際会議場(驚声ビル3階)
	基調講演 2 司会者 潘 慧玲(淡江大学教授兼学習與教学中心執行長) 講演者 張 輝誠(台湾中山女子高級中学教師・「学 思 達」創立者) テーマ 學思達隨時開放教室, 讓世界走進來
11:30-12:20	驚声国際会議場(驚声ビル3階)
	世紀大対談 司会者 張 鈿富(淡江大学教授兼教育学部学部長) 対談者 佐藤 学教授 張 輝誠博士 潘 慧玲教授
12:20-13:30	昼食(驚声国際会議場内)とポスター発表(驚声国際会議場2階にて)が同時進行
12:20-13:30	ポスター発表
	① 池田 隆介(北九州市立大学教授) 学術文章執筆能力の向上に貢献するルーブリック式レポート評価表 —日本人大学生のレポート自己評価、及び、ピアレビューを通じて— ② 伊勢 みゆき(新宿日本語学校) 日本人との「つながり」の中でのみ日本語の会話は上達するか —日本語学校におけるカリキュラムと会話能力の関係を探る— ③ 虞 安寿美 釜淵 優子(中國文化大学推廣教育部兼任講師 YUMA Teaching Japanese Firm 台湾代表 関西学院大学非常勤講師) ビジネス場面で本当に求められる発話能力を考える

	<p>—面接時の自己PRなどを題材にして—</p> <p>④ 大津 友美（東京外国語大学准教授） 会話に参加するための能力を考える授業</p> <p>—第二言語話者が参加する会話の分析を通して—</p> <p>⑤ 黄 聖文 黄 鴻銘 林 明萱 李 姿蓉（銘伝大学非常勤講師 銘伝大学修士課程） 台湾の A1 レベル日本語学習の日本語使用場面に関する一考察</p> <p>—高校における日本語クラス履修者を対象に—</p> <p>⑥ 坂井 菜緒（武蔵野大学非常勤講師） 初級日本語クラスにおけるビジターセッションの意義とは</p> <p>—日本語学習者とビジターの学びの考察—</p> <p>⑦ 田邊 充博（桜花日本語学園） 参加者が「対話」によって創る教室活動とは</p> <p>—ある初級日本語教室の実践から見る—</p> <p>⑧ 中谷 規子（ICT ビジネスジャパニーズ講師） 日本語学習者の語サーチ</p> <p>⑨ 持田 祐美子 濱畑 静香 永田 由紀（平沢大学助教授 皇学館大学助教 高麗大学大学院博士課程） 「どう どんな質問」による効果的な発話抽出の一考察</p> <p>—OPI テスター訓練生のインタビューデータをもとに—</p>		
パネル 1 プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場			
13:30-14:10	<p>驚声国際会議場(驚声ビル 3 階)</p> <p>プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場</p> <p>司会者 頼 振南(輔仁大学教授兼学部長 台湾日本語文学会理事長 国際医療翻訳協会理事長)</p> <p>韓国代表 川口 慶子 (崇実大学招聘教授)</p> <p>香港代表 上田 早苗 (香港中文大学高級講師)</p> <p>ブラジル代表 向井 裕樹 (ブラジリア大学文学部科長)</p>		
14:10-14:30	総合討論		
14:30-14:40	ティータイム		
14:40-17:10	<p>OPI ファミリアライゼーション/OPI リフレッシャーワークショップ</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>驚声国際会議場(驚声ビル 3 階)</p> <p>司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</p> <p>OPI ファミリアライゼーション</p> <p>牧野 成一先生 (プリンストン大学名誉教授 OPI トレーナー)</p> </td> <td> <p>T311</p> <p>司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>OPI リフレッシャーワークショップ</p> <p>三浦 謙一先生 (フランクリン&マーシャルカレッジ教授 OPI トレーナー)</p> </td> </tr> </table>	<p>驚声国際会議場(驚声ビル 3 階)</p> <p>司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</p> <p>OPI ファミリアライゼーション</p> <p>牧野 成一先生 (プリンストン大学名誉教授 OPI トレーナー)</p>	<p>T311</p> <p>司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>OPI リフレッシャーワークショップ</p> <p>三浦 謙一先生 (フランクリン&マーシャルカレッジ教授 OPI トレーナー)</p>
<p>驚声国際会議場(驚声ビル 3 階)</p> <p>司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</p> <p>OPI ファミリアライゼーション</p> <p>牧野 成一先生 (プリンストン大学名誉教授 OPI トレーナー)</p>	<p>T311</p> <p>司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>OPI リフレッシャーワークショップ</p> <p>三浦 謙一先生 (フランクリン&マーシャルカレッジ教授 OPI トレーナー)</p>		
17:10-17:30	連絡事項、各研究会紹介等 (池畑 裕介 2017 年第 11 回 OPI 台湾大会事務局長)		
18:00-19:30	懇親会 (福格大飯店 新北市淡水區學府路 89 号 http://www.regalees-hotel.com.tw)		

二日目 2017年8月5日(土曜日)

セッションと 場所	研究発表 01 驚声国際会議 場	研究発表 02 T310	研究発表 03 T311	研究発表 04 T211	研究発表 05 T212	研究発表 06 T110
発表主題	対話活動	交流授業	会話分析	OPI 判定 実 施	縦断研究	日本語学
コメンテーター 兼司会者	許 均瑞 銘伝大学 副教授	施 信余 淡江大学 副教授	林 慧君 台湾大学 教授	堀越 和男 淡江大学 副教授	林 玉恵 銘伝大学 副教授	蘇 克保 東呉大学 副教授
09:00-09:30	橋尾 晋平 同志社大学 博士課程 初級日本語学習 者の発表する能 力 話し合う能 力の向上を目指 す日本語版「シ ンプル ディベ ート」の提案	工藤 節子 東海大学 助理教授 交流活動にお ける学習環境 デザインの要 件—あるプロ ジェクト型交 流を事例とし て—	陳 姿菁 開南大学 副教授 日本語学習者 における発話 分析—OPI 的 概念を取り入 れた授業を例 に—	小島堅嗣 山中峰央 後藤歩 培材大学校助 教授・韓国外 国語大学校博 士課程 OPI の複数テ スターによる 判定要因の分 析—判定者間 の信頼性向上 に向けての施 策—	世良 時子 成蹊大学 常勤講師 CLD 生徒で あった大学生 の日本語能力 評価に関する 考察—OPI に よる縦断デー タの分析から —	郭 獻尹 東呉大学 非常勤講師 台湾人学習者 の「そうです か」のイント ネーションの 習得について
09:30-10:00	中村 香苗 淡江大学 助理教授 日本語 L1-L2 話 者間のフィッ シュボウル式議 論訓練の成果 —L1 話者の調 整行動の変化を 中心に—	張 瑜珊 東海大学 助理教授 プロジェクト 型交流におけ る言語行動の —考察	黄 英哲 台中科技大学 副教授 上級段階で学 ぶ台湾人日本 語学習者の口 頭伝達力につ いて	大隅 紀子 堀 恵子 東京大学非常 勤講師・東洋 大学非常勤講 師 上 超級話者 の発話を引き 出すための談 話展開と効果 的な質問	久保田 佐和子 文藻外語大学 常勤講師 OPI を用いた 台湾人日本語 学習者の発話 縦断調査 —文藻外語大 学を例として —	劉 志偉 埼玉大学 准教授 撥音便の周辺 形式について —ラ行音の撥 音化に注目し て—
10:00-10:30	荒井 智子 銘伝大学 助理教授 学生の思考力の 拡散プロセスを 重視した作文の 授業—ピア レ スポンスの読み 手側に注目して —	落合 知春 山口 知才子 田代 奈緒子 梅村 弥生 イーストウエ スト日本語学 校専任講師・ 同非常勤講師 他者とのかか わりの中で学 ぶ教室活動— 環境問題を通 して—	萩原 孝恵 池谷 清美 山梨県立大学 准教授・チュ ラーロンコー ン大学助教授 フィラーとの 共起にみる舌 打ちと笑い —タイ人日本 語学習者の発 話を表象する 非言語行動の		小林 安那 神谷 英里 釜山外国語大 学助教授・ハ ノイ国家大学 常勤講師 Can-do を用い た会話授業の 実践—ピア フィードバッ クと自己内省 を通して—	齊藤 真理子 三国 純子 文化学園大学 教授 意見述べに見 られる表現— 「じゃない か」を中心に —

			特徴—			
10:30-10:40	ティータイム					
セッションと場所	研究発表 07 驚声国際会議場	研究発表 08 T310	研究発表 09 T311	研究発表 10 T211	研究発表 11 T212	研究発表 12 T110
発表主題	身体表現活動	評価	教室活動	スキル判定と教育	オンライン教育	日本語学
コメンテーター兼司会者	董 莊敬 (文藻外語大学 副教授)	李 偉煌 (靜宜大学 副教授兼主任)	范 淑文 (台湾大学 教授兼主任)	林 立萍 (台湾大学 教授)	邱 若山 (靜宜大学 副教授)	黄 英哲 (台中科技大学 副教授)
10:40-11:10	清水 泰生 同志社大学 嘱託講師 身体活動とパフォーマンスについて—肉体が変われば日本語教授法も変わる—	賴 錦雀 東呉大学 教授 日本語学習者に求められる異文化交流能力の育成と測定—台湾人の場合—	古田 梨乃 山田 航司 開南大学専任講師・同交換 研究員 日本語会話クラスにおける効果的な教室活動—文法を使っていかに話させるか—	上田 早苗 香港中文大学 高級講師 香港の上級日本語学習者の書く力を測る	落合 由治 淡江大学 教授 表現史から見た日本語 MOOCS の位置付け	蔡 季汝 樹人医護管理 専科学校 助理教授 日本語学習者の可能表現における理解状況—中国語を母語とする場合—
11:10-11:40	堀越 和男 淡江大学 副教授 日台遠隔協働授業の活動とその実態—「協働創作演劇」における学びについて—	向井 裕樹 ブラジリア大学 准教授 ブラジルの高等教育における日本語教育—口頭運用に関する教室活動と評価—	王 嘉臨 淡江大学 助理教授 文学授業を活性化する言語活動の構築—淡江大学を事例として—	林 雅芬 何 月華 台中科技大学 助理教授・淡江大学兼任講師 大学通訳教材の開発実践について	曾 秋桂 淡江大学 教授 台湾 初 MOOCs「非常村上春樹」を実践例として	堀内 仁 国際教養大学 准教授 中国語母語話者の日本語丁寧体動詞の発達—コーパスに基づく分析—
11:40-12:10	張 桂娥 東呉大学 副教授 アクティブラーニング型授業における多重評価システムの設計をめぐって—台湾東呉大学日本語学科4年次選択科目「時事日本語」の実践を例に—	関口 要 実践大学 助理教授 台湾の大学の日本語中上級会話クラスにおける定期試験の評価方法	吳 翠華 林 淑璋 元智大学 副教授・同助理教授 児童文学指導の新しい試み—子供の日本文化体験キャンプを採り入れて—		宇田 左近 ビジネス ブレークスルー 大学副学長 オンラインによる大学教育のフロンティア	ラッタナポン ピンヨー プラッチャヤ ポーン 大阪大学博士 課程後期 「ダロウネ」をめぐって—タイ語と対照させて—
12:10—13:10	昼食(驚声国際会議場内)とポスター発表(驚声国際会議場 2階にて)が同時進行					

12:10-13:10	<p>ポスター発表</p> <p>① 池畑 裕介（中國文化大学推廣教育部教学主任） 絵本セラピーを使った中上級会話の実践—癒しの教室を目指して—</p> <p>② 安高 紀子・小森 和子（明治大学、東京外国語大学講師 明治大学准教授） 「話す」と「書く」という産出方法の違いが談話構造に与える影響 —日本語学習者による意見を述べる談話の比較—</p> <p>③ 内田 康（淡江大学助理教授） 百人一首を用いた日本語-文学-文化体験学習連結の試み —淡江大学における事例の実践報告—</p> <p>④ カンジャマーボンクン サティダー（大阪大学） 会話における繰り返し表現 —「驚きの表示」と「抵抗感」との関係を中心に—</p> <p>⑤ 芝田 沙代子（東呉大学博士課程） アクティブラーニングを目指したJFL日本語教育の可能性 —インターネットのチャットを通して—</p> <p>⑥ 蘇 彦如（中國文化大学推廣教育部兼任講師） モチベーション研究における動機付け —台湾の高校における第二言語教育を中心として—</p> <p>⑦ 陳 文瑤（大葉大学副教授） 『できる日本語』で話せる力を育成する試み</p> <p>⑧ 廖 育卿（東呉大学博士課程） ポर्टフォリオを利用した日本語指導法の一試み —自律学習を目指して—</p>
<p>パネル2 「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト 司会者:孫 寅華(淡江大学副教授)</p>	
13:10-14:30	<p>パネルディスカッション1 20分 講演者:陳 淑娟（東呉大学教授） テーマ「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト—台湾のJ-GAPの成果とこれから—</p> <p>パネルディスカッション2 20分 講演者:嶋田 和子（アクラス日本語教育研究所代表理事） テーマ「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト—日本の現状とこれから—</p> <p>パネルディスカッション3 20分 講演者:三浦 謙一（フランクリン&マーシャルカレッジ教授） テーマ「つながり」重視の日本語学習パラダイムシフト—米国の日本語教育の今とこれから—</p> <p>Q&A 20分</p>
14:30-14:45	ティータイム
14:45-15:45	<p>司会者:羅 曉勤 (銘伝大学副教授)</p> <p>OPIデモンストレーション 鎌田 修 (南山大学教授)</p>
15:45-16:00	ティータイム
16:00-17:20	<p>パネルディスカッション 2017年第11回 OPI大会発表成果と展望——成果共有を目指して</p> <p>司会者兼パネリスト 頼 錦雀(東呉大学教授)</p> <p>パネリスト(驚声国際会議場会場担当) 中村 香苗(淡江大学助理教授)</p> <p>パネリスト(T310 会場担当) 施 信余(淡江大学副教授)</p> <p>パネリスト(T311 会場担当) 陳 姿菁(開南大学副教授)</p> <p>パネリスト(T211 会場担当) 羅 曉勤(銘伝大学副教授)</p> <p>パネリスト(T212 会場担当) 落合 由治(淡江大学教授)</p>

	<p>パネリスト(T110 会場担当) 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</p> <p>総合討論(20分)</p>
17:20-17:30	<p>閉会式 閉会の辞</p> <p>曾 秋桂(淡江大学教授兼学科主任 村上春樹研究センター長</p> <p>2017年第11次 OPI 国際シンポジウム台湾大会実行委員長)</p>
17:30-18:30	<p>晚餐交流会(驚声国際会議場内)</p> <p>主 催 :淡江大学日本語文学科 村上春樹研究センター</p> <p>共 催 :科技部 中国文化大学推広教育部</p> <p>協 賛 :日本語プロフィシエンシー研究会 日本語 OPI 研究会 九州 OPI 研究会 浜松 OPI 研究会 韓国 OPI 研究会 ACTFL 日本比較文化学会 台湾日本語教育学会 台湾日本語文学会</p> <p>後 援 :日本台湾交流協会</p> <p>+</p> <p>参加申し込みサイト http://www.harukistudy.tku.edu.tw/news/news.php?Sn=173</p> <p>①大会内容お問い合わせ</p> <p>電話 +886-2-23567356 内線 7331(池畑事務局長に繋がります)</p> <p>メール 池畑 裕介 kumayujie27@gmail.com</p> <p>② 参加受け付けと参加関係お問い合わせ</p> <p>メール 落合 由治 098184@mail.tku.edu.tw,taiwan_nichigo@yahoo.co.jp</p> <p>電話 +886-2-26215656 内線 2340 2341 2958(淡江大学日本語学科まで日本語も可能です)</p>